

# イノシシ保護管理の考え方と効果的な進め方

千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科 加瀬ちひろ

## 1. イノシシ保護管理の現状と課題

イノシシは年毎だけでなく年内での個体数変動も大きく、シカと比較して生息密度などの指標を得にくい動物である。また、農業被害程度と生息密度（目撃効率）は必ずしも相関しておらず、イノシシの被害は密度依存であるとの決定的な証拠は得られていない。これらの知見より、現在の主な課題が「農林業被害の軽減」であるイノシシ保護管理においては、生息数や密度を指標とした個体数管理ではなく、被害を及ぼしている加害個体を中心とした捕獲が、確実な被害低減につながると考えられる。

野生動物の保護管理は、個体数（群）管理、被害防除、生息地管理をバランスよく実施することが基本であるが、イノシシ保護管理においては、まず被害防除を重点的に実施する必要がある。

## 2. イノシシの特性と保護管理

被害防除は柵の設置だけではなく、野生動物の警戒心を高め集落への出没を抑制する環境整備や、捕獲による加害個体の除去も取組み内容に含まれる。イノシシの被害防除については、種特有の行動や生態に基づいた技術開発が進んでおり、効果的な防除方法が多数示されている。実際の被害現場では、イノシシに対する誤解や認識不足によって不適切な対策を行い、被害が防げず、地域住民の対策意欲が低下している場合がある。被害防除においては、地域住民による主体的な活動が重要となるため、行政が情報拠点となり、正しい対策知識を普及・指導することが必要である。このような情報の提供システムを構築できるかが、被害防除の取組みの明暗を分けている。

個体数管理については、捕獲しやすい幼獣を中心に全体の捕獲頭数を伸ばすよりも、集落周辺を行動圏とする加害個体や、繁殖可能な成獣個体を捕獲することで、被害や全体の生息数の低減が効率的に行われる。またモニタリングでは、このような捕獲が適切に行われているかを評価するため、捕獲個体の体重や体毛の模様により、成獣捕獲率を評価することを提案する。

# イノシシ保護管理の 考え方と効果的な進め方



千葉科学大学 危機管理学部  
動物危機管理学科  
加瀬ちひろ

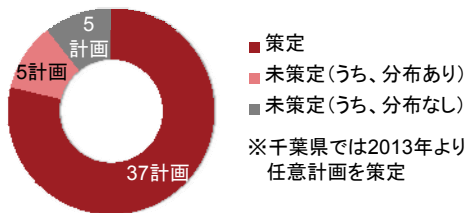
## 目次

- ・ 保護管理の現状と課題
- ・ イノシシの特性と保護管理  
(被害防除、個体数管理、モニタリング)
- ・ 施策事例の紹介

## イノシシ保護管理の現状

### イノシシ保護管理計画の策定状況

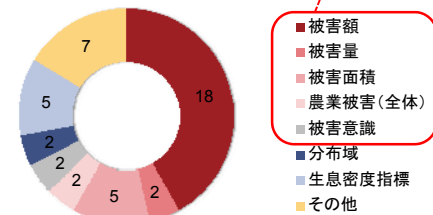
(平成25年4月現在)



## 管理目標

特定計画の管理目標(府県数)

「被害」が管理指標



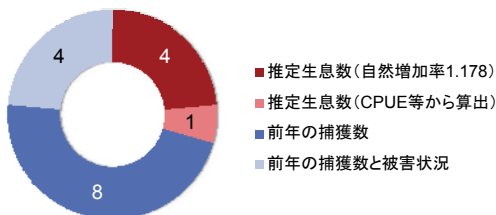
※1 特定計画書の判読により、主な情報を整理(計画作成時の情報)  
(第11次計画期間:2012~2016年度)

※2 2012年10月時点での集計値(以下、同様)

## 目標捕獲数

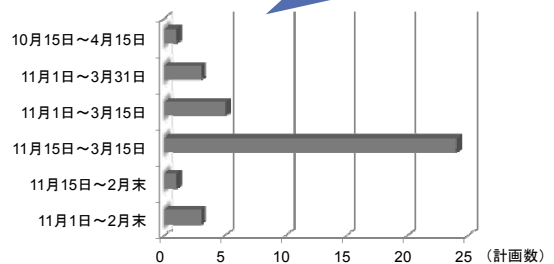
特定計画のうち、半数が年間の目標捕獲数を設定

目標捕獲数と設定根拠



## 狩猟の規制緩和

狩猟期間を後ろに延長:25計画  
前後に延長:12計画



## その他

- 行政主導の「鳥獣対策プロジェクトチーム」等の組織づくりが西日本でされている
- 関連計画との連携、地域ぐるみの取組みを推進する記載が増加



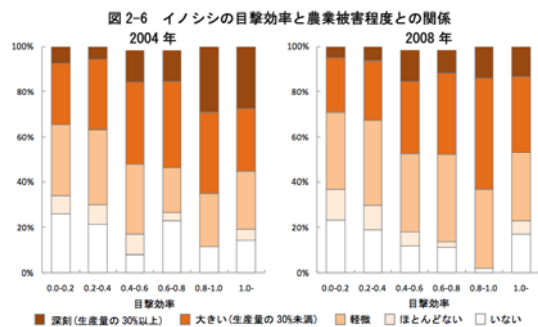
特定計画の記載内容だけでは  
具体的な取組みは不明

## イノシシ保護管理の課題

管理目標は被害指標が多数を占める一方  
生息数や密度を管理するものと考えている？

- 個体数の変動が大きい
- 生息密度の指標を得にくい
- 被害と生息密度の相関が低い

## 被害と生息密度の相関が低い

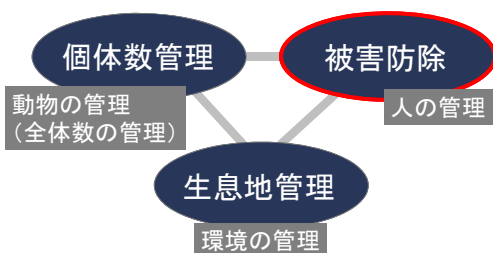


兵庫県森林動物研究センター ワイルドライフモノグラム2号より抜粋

## イノシシ保護管理を どうすれば良いのか？

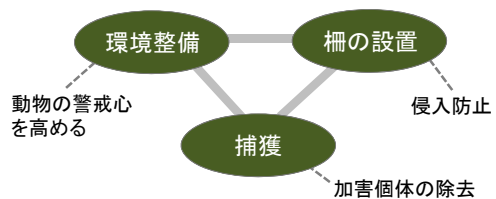
保護管理の基本をおさえつつ  
イノシシの特性に合った管理を行う

## 保護管理の基本



## 被害防除

柵の設置だけが「被害防除」ではない



正しい知識に基づいた対策を！

イノシシの**間違った被害対策**が多い

↓  
対策をしても防げない

↓  
被害が減らない  
対策意欲の低下

## 問題

なぜイノシシは水稻被害を出すのか？

答え:

野生動物は新しいものに警戒する  
特にイノシシは警戒心が強い



飼育個体でも  
新規物に慣れるまで  
数日～数週間かかる

例) 水稻被害の発生

水田 + イノシシ + 学習 = 被害

イノシシの学習ステップ

- ・ 水稻は食べられるもの
- ・ 水稻は簡単・大量に摂取できる良い餌
- ・ 集落は安全な場所

↓  
集落依存

★ 屋間にも出没



まずは学習させる要因を除去

- ・ 水稻は食べられるもの
- ・ 水稻は簡単・大量に摂取できる良い餌

11月(島根県)



まずは学習させる要因を除去

- ・ 集落は安全な場所



柵の設置  
簡易柵 or 広域柵

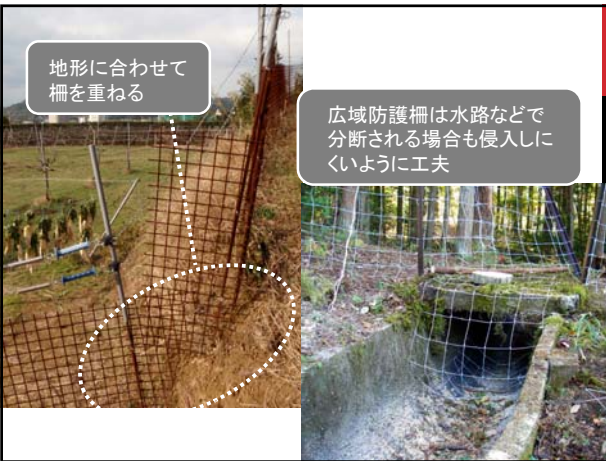
- ・ 正しく設置  
隙間を作らない  
電気柵は確実に感電させる
- ・ 定期的な点検

柵は高さよりも潜り込み対策を！



地形に合わせて  
柵を重ねる

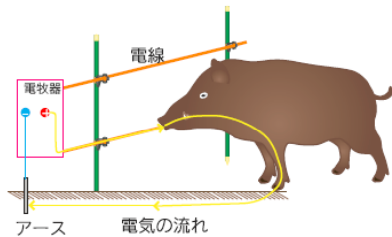
広域防護柵は水路などで  
分断される場合も侵入しに  
くように工夫



目隠しで柵の効果アップ

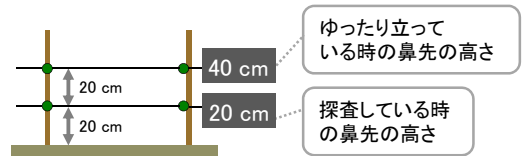


電気柵は確実に感電させる



鼻で電線に触れさせる + 足先から地面へ電気を流す

鼻で触れさせるには？



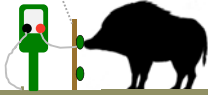
※ 30 cm 間隔にすると  
柵線を探査せず侵入

碍子の向きは外側  
碍子も通電する  
タイプの方が良い

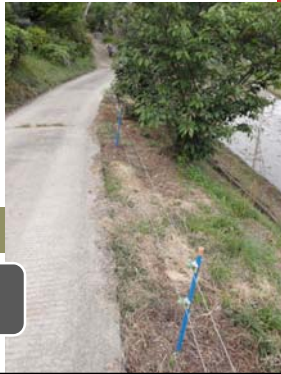


## 足先から地面へ電気を流すには？

電圧は3000V以上を維持



コンクリートは電気を通しにくい  
電気柵の設置場所に注意



## 設置時は常に通電

必ず24時間通電させる  
イノシシは完全な夜行性ではない



非通電時に侵入されると、その後通電しても警戒しながら電柵線に触れなくなる  
通電しても感電せずに侵入してしまう

通電させない時期は  
電気柵を撤去  
再設置後はすぐに通電



## 設置したら完了ではない

適切に機能しているか  
侵入されている場所はないかを点検

一刻も早く柵を補修・バージョンアップをする

対応が遅れて何度も侵入を許すと  
その場所への依存率が高まる

特に、広域防護柵の管理は  
十分に体制を整える必要がある

管理がなされずに遺跡と  
化した柵は多々ある...



## まずはみんなで正しい知識を学ぶ

### 【行政の役割】

正しい情報の提供 ← システム構築

- 行政担当者、農家、一般(大人、子ども)を対象とした勉強会の開催
- 情報拠点、技術普及  
例) 農業普及員による正しいイノシシ対策方法の指導

## 指導者としての心得

### ・適切な指導

最終的には農家が自分で考えて  
対策を進められるように指導

### ・過剰な期待はさせない

過剰な期待が裏切られたとき  
対策意欲は激減する

### ・事業の進め方に注意

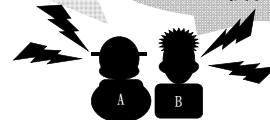
被害対策は行政にやってもらうもの  
と思わせてはいけない

被害は現場で起きている！  
それぞれの現場に合った対策を一緒に考える

## 農家さんによく言われること

被害があるから何も作れない  
どうにかしてくれ！

動物なんて昔はいなかった  
駆除してくれ!!



野菜くずは放置していませんか？  
どんな柵を設置していますか？  
一緒に現場を見せてもらえますか？

## 個体数管理・・・被害の低減、生息数の低減

「何頭」捕獲するか、よりも「何を」捕獲するか！

個体を選択した管理捕獲



趣味なので強制できない

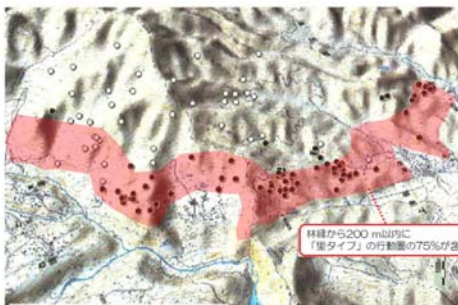
目的：被害の低減、生息数の低減

2つのポイント

【どこで】

【何を】

## 集落周辺での捕獲



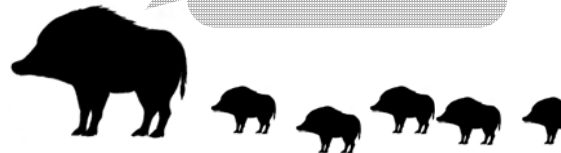
○：一度も田畑に下りてこなかったイノシシ  
●：田畑にいたイノシシ

北杜市（須玉町・高根町）の例

環境省 イノシシの保護管理に関するレポート(平成25年度版)より抜粋

## 成獣の捕獲

- ・ 2歳の春に出産
- ・ 妊娠期間4ヵ月
- ・ 子どもは平均4.5頭
- ・ 1歳までの死亡率が高い



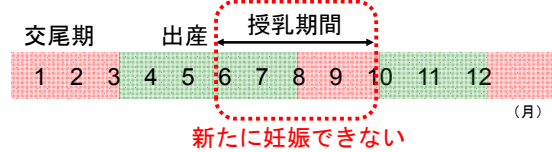
箱わなを置くと  
どちらが先に入るか？

答え：

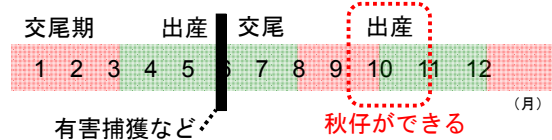
なぜ成獣を捕獲すべきなのか？

- ① 幼獣が捕獲された母親は、箱わなへの警戒心が強くなる  
➡ 捕獲困難な個体を創出
- ② 幼獣を失った母親は、秋に再度出産する  
➡ 生息数の低減につながらない
- ③ 加害個体の母親から、新たに生まれた子どもは農作物依存になる可能性が高い  
➡ 加害個体の発生の根源を断てていない

・順調に子が育った場合



・途中で子を失った場合



集落周辺で成獣を捕獲

【行政の役割】

- ・地域の状況に合わせた捕獲方法の指導  
例)箱わな、くくりわな、囲いわなの  
メリット・デメリット
- ・成獣の捕獲を促進するシステム構築  
例)成獣と幼獣で報奨金に差をつける  
(福井県:成獣7000円、幼獣3000円)

モニタリング

適切な捕獲がされているか評価する必要がある

イノシシの許可捕獲は  
有害鳥獣捕獲が8割以上

市町村主体の取組み

市町村で統一様式・情報共有が重要

適切な捕獲がされているか？

適切な捕獲 = 集落周辺  
成獣

【成獣とは】

発情し繁殖に参加可能な個体  
メス：1歳半で性成熟

成獣の簡易判別方法

・体重(kg)

例) 幼獣(～20 kg)、成獣(21 kg～)  
幼獣(～30 kg)、成獣(31 kg～) など

注意点 栄養状態によりバラツキが大きい

・体毛の模様

ウリ模様が完全に消えている個体を「成獣」とする

ウリ模様は生後3カ月頃から消え始め  
生後半年～1年で完全に消える

注意点 消失時期は個体により若干異なる

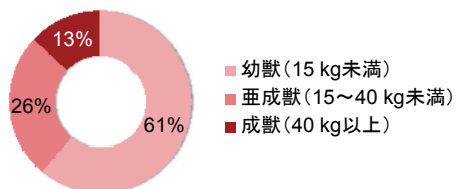


写真: 農研機構近畿中国四国農業研究センター江口祐輔氏



## 佐賀県のモニタリング事例

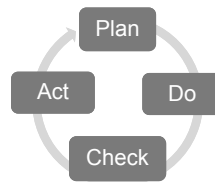
### 有害鳥獣捕獲個体の体重内訳



捕獲しやすい幼獣を中心に捕獲している？

## 特定計画は全体の方向性を示すにすぎない

- ・ 具体的な行動計画は別途考える必要がある
- ・ 「計画」だけでは保護管理は成立しない



野生動物の順応的管理